

# 令和5年度全国学力・学習状況調査結果（概要）について

浜田市教育委員会

## 1 調査の概要

(1) 調査実施日 令和5年4月18日（火）

(2) 調査の対象

国・公・私立学校小学校6年生（特別支援学校含む） 全児童

国・公・私立学校中学校3年生（特別支援学校含む） 全生徒

※ 特別支援学校及び小中学校の特別支援学級在籍者のうち、下学年の内容などに代替して指導を受けている児童生徒や特別支援学校の教科の内容の指導を受けている知的障がい者である児童生徒は、調査対象としない。

(3) 浜田市での調査対象児童生徒数 ・小学校 388名 ・中学校 369名

(4) 調査の内容

① 教科に関する調査 小6：国語・算数 中3：国語・数学・英語

※ 中学校英語「話すこと」については、生徒が活用するICT端末等を利用したオンライン方式によって実施。

② 質問紙調査 児童生徒に対する質問紙調査 学校に対する学校質問紙調査

## 2 各教科の平均正答率

中学校の英語については、前回調査が令和1年度であった。したがって、「差」については令和1年度との比較とした。

### (1) 小学校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県) <昨年>	差(市一国) <昨年>	差(県一国) <昨年>
国語	64.0	65.0	67.2	-1.0 <-4.0>	-3.2 <-5.6>	-2.2 <-1.6>
算数	58.0	59.0	62.5	-1.0 <-4.0>	-4.5 <-6.2>	-3.5 <-2.2>

### (2) 中学校

	平均正答率（％）					
	浜田市	島根県	全国	差(市一県) <昨年>	差(市一国) <昨年>	差(県一国) <昨年>
国語	68.0	70.0	69.8	-2.0 <±0>	-1.8 <±0>	+0.2 <±0>
数学	47.0	48.0	51.0	-1.0 <-3.0>	-4.0 <-5.4>	-3.0 <-2.4>
英語	38.0	40.0	45.6	-2.0 <-4.0>	-7.6 <-7.0>	-5.6 <-3.0>

### 3 浜田市の結果

#### (1) 各教科の分類別集計結果の概要

※ ○：市が県を2ポイント以上、上回るもの

－：市と県の差が2ポイント未満のもの

△：市が県を2ポイント以上、下回るもの

##### ① 小学校国語

学習指導要領の領域	対象設問数 14	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
言葉の特徴や使い方に関する事項	5	67.8	70.9	-3.1	△
情報の扱い方に関する事項	2	61.1	61.1	0	-
我が国の言語文化に関する事項	0				
話すこと・聞くこと	3	69.5	70.6	-1.1	-
書くこと	1	22.9	22.6	+0.3	-
読むこと	3	66.7	68.0	-1.3	-

##### ② 小学校算数

学習指導要領の領域	対象設問数 16	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と計算	6	63.7	63.8	-0.1	-
図形	4	42.7	43.3	-0.6	-
測定	0				
変化と関係	4	64.4	66.6	-2.2	△
データの活用	3	62.0	62.8	-0.8	-

##### ③ 中学校国語

学習指導要領の領域		対象設問数 15	平均正答率(%)			
			浜田市	島根県	差	
知識 及び 技能	(1) 言葉の特徴や使い方	2	72.5	70.1	+2.4	○
	(2) 情報の扱い方	2	61.5	62.7	-1.2	-
	(3) 我が国の言語文化	3	70.7	75.8	-0.5	△
思考力	A 話すこと・聞くこと	3	82.0	81.5	+0.5	-
判断力	B 書くこと	2	57.0	61.2	-4.2	△
表現力	C 読むこと	4	59.5	62.9	-3.4	△

##### ④ 中学校数学

学習指導要領の領域	対象設問数 15	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
数と式	5	57.3	58.9	-1.6	-
図形	3	27.5	29.4	-1.9	-
関数	4	44.8	48.4	-3.6	△
データの活用	3	51.4	48.6	+2.8	○

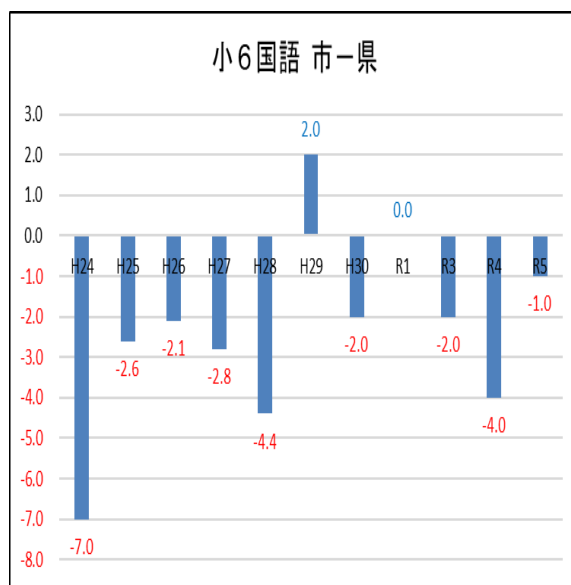
⑤ 中学校英語

学習指導要領の領域	対象設問数 17	平均正答率(%)			
		浜田市	島根県	差	
聞くこと	6	52.2	52.5	-0.3	-
読むこと	6	43.9	46.2	-2.3	△
書くこと	5	14.6	17.3	-2.7	△

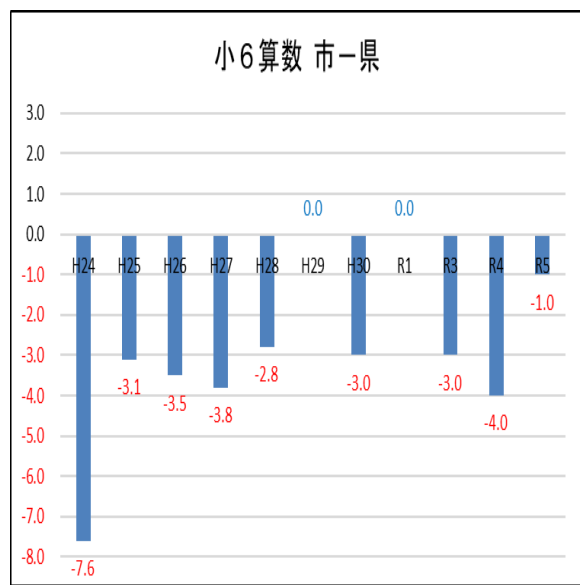
※ 「話すこと」については、オンラインの音声録音方式で実施。令和5年度については、浜田市は期間内実施校であり、結果提供は8月下旬となっていることから、表からは省略している。

(2) 平均正答率の県との差の推移（英語については実施回数が少ないため省略）

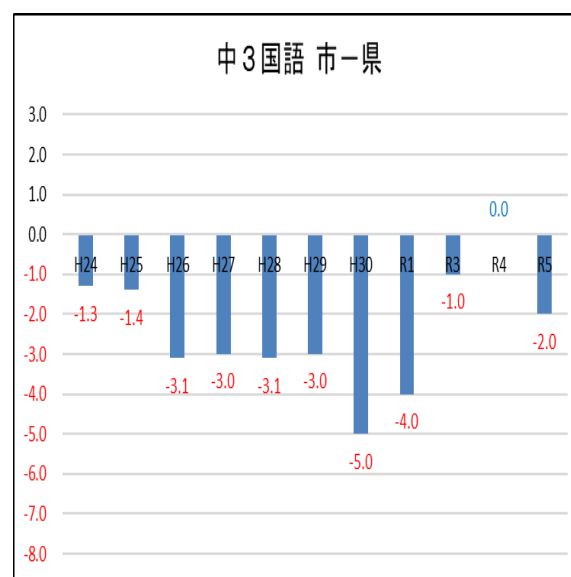
小6国語



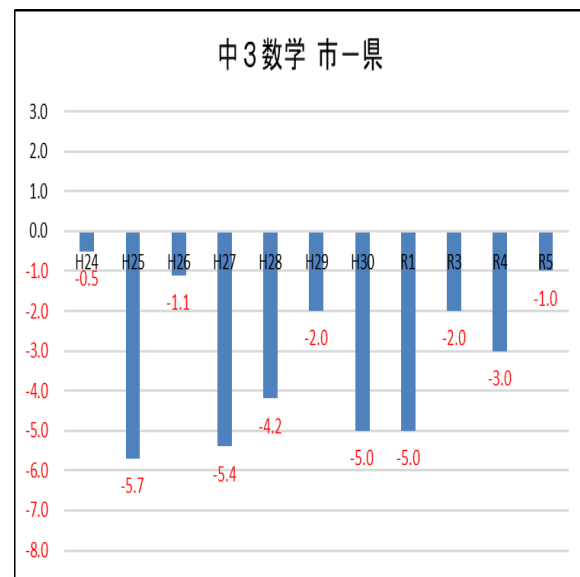
小6算数



中3国語



中3数学



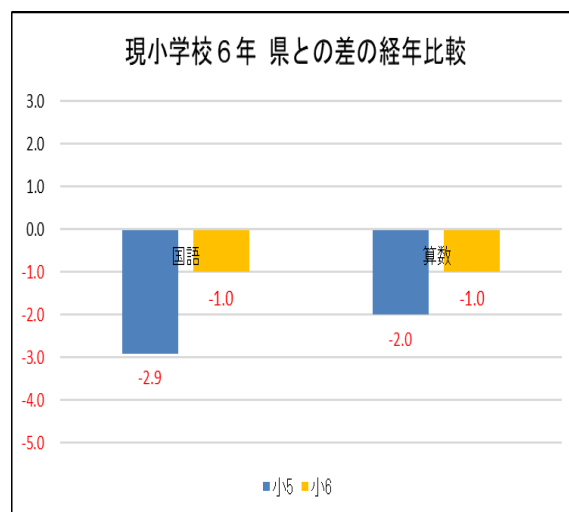
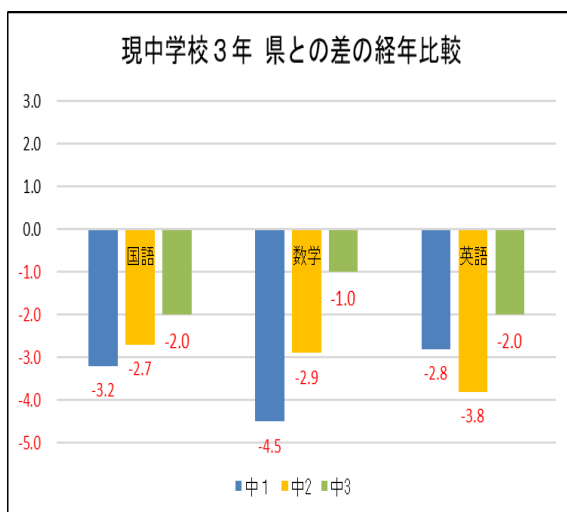
(3) 対象学年の平均正答率の県との差の経年比較

現中学校3年生

学年・学力調査種別	国語	数学	英語
R3県学力(中1)	-3.2	-4.5	-2.8
R4県学力(中2)	-2.7	-2.9	-3.8
R5全国学力(中3)	-2.0	-1.0	-2.0

現小学校6年生

学年・学力調査種別	国語	算数
R4県学力(小5)	-2.9	-2.0
R5全国学力(小6)	-1.0	-1.0



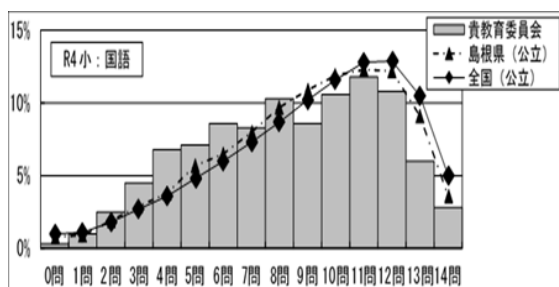
(4) 問題形式別の県との差

※ ( ) 内の数値は令和4年度(英語は令和1年度)の県との差を表す

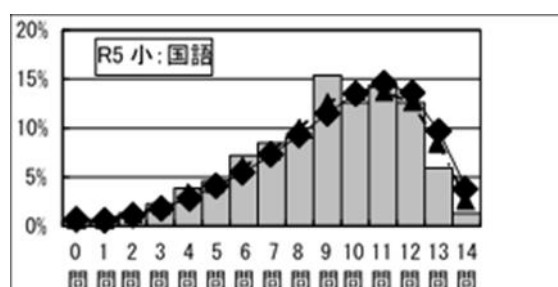
	小6国語	小6算数	中3国語	中3数学	中3英語
選択式	-1.0 (-4.6)	-0.7 (-4.7)	-0.8 (-0.4)	-2.6 (-2.2)	-1.2 (-1.3)
短答式	-4.7 (-5.8)	-0.8 (-3.3)	-1.9 (+0.3)	+1.5 (-3.2)	-3.2 (-3.3)
記述式	-1.3 (-2.4)	-1.3 (-3.8)	-3.4 (-0.2)	-3.7 (-2.3)	-2.0 (±0)

(5) 正答率分布

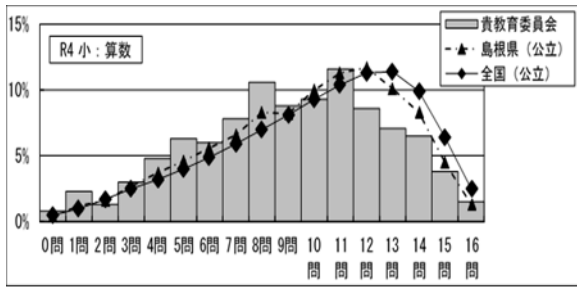
小6国語 【令和4年度】



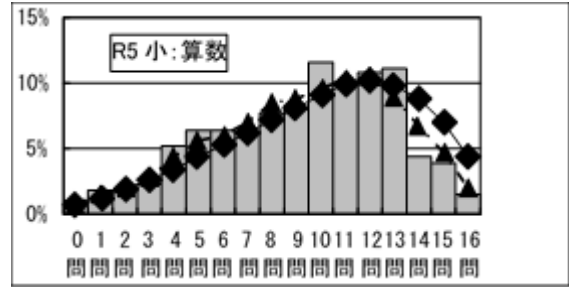
【令和5年度】



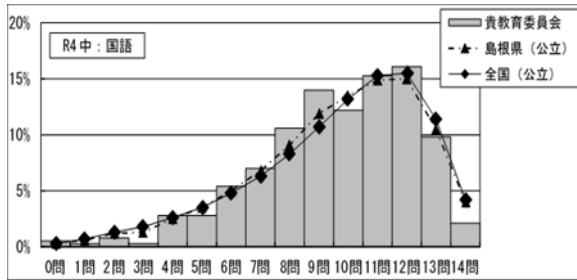
小6 算数 【令和4年度】



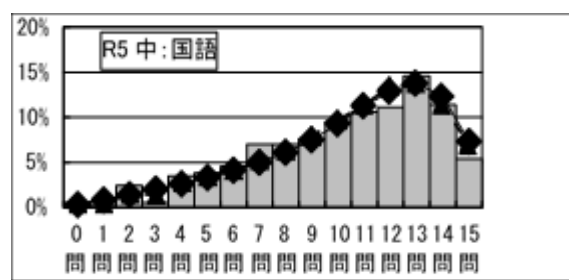
【令和5年度】



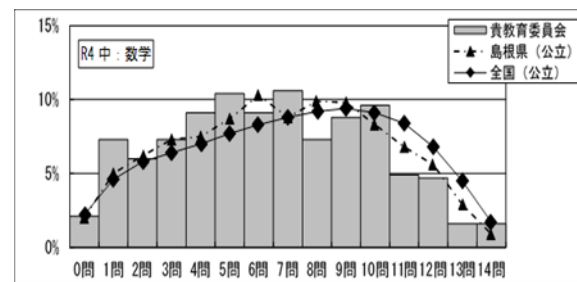
中3 国語 【令和4年度】



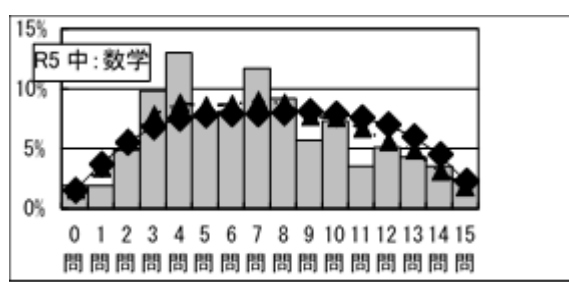
【令和5年度】



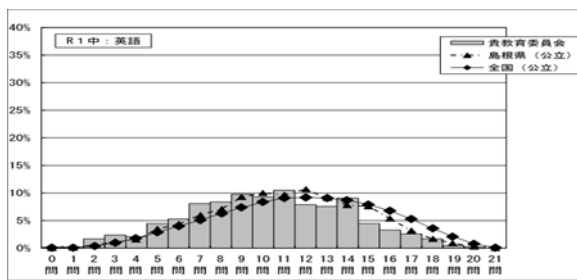
中3 数学 【令和4年度】



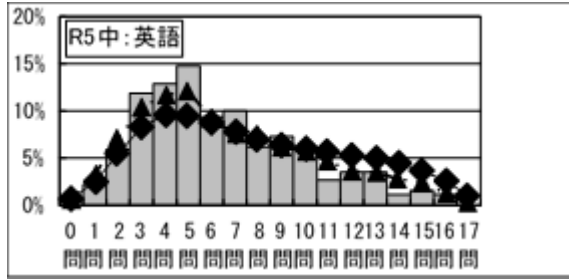
【令和5年度】



中3 英語 【令和1年度】



【令和5年度】



## (6) 教科に関する結果の概要

### ① 浜田市児童生徒の平均正答率の特徴

県平均正答率と比較して上回っている設問の上位3設問及び下回っている下位3設問の状況は以下のとおりである。

#### 【小学校国語】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域等
2一	90.0% (+2.4)	選択式 [±0]	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる	読むこと
1三 (2)イ	92.8% (+1.9)	選択式 [-0.3]	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気をつけて書き直したものに於いて適切なものを選択する(くらべて)	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項
3一(1)	71.7% (+0.9)	選択式 [-1.9]	【インタビューの様子】の傍線部ア(～ということだと思いますが、合っていますか。)のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと
1三 (1)ア	42.7% (-8.9)	短答式 [-10.1]	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(いがい)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項
2二	55.3% (-5.9)	選択式 [-12.1]	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる	読むこと
3三	55.3% (-4.6)	選択式 [-2.3]	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項

#### 【中学校国語】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
3二	54.2% (+4.7)	短答式 [+10.3]	漢字を書く(おしはかって)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項
2二	64.2% (+2.1)	選択式 [+1.2]	二つの文章に共通する表現の効果を説明したものと適切なものを選択する	観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる	読むこと
1四	83.7% (+1.1)	記述式 [+1.2]	インタビューのまとめとしてどのようなことを述べているのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと
4一	77.0% (-7.9)	短答式 [-5.5]	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	我が国の言語文化に関する事項
2四	61.5%	記述式	自分がこれからどのような	文章を読んで理解したこ	我が国の

	(-6.1)	[-5.9]	に本を読んでいきたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に触れながら書く	となどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる	言語文化に関する事項 読むこと
2三	68.3% (-5.3)	選択式 [-5.9]	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について記述を基に捉え、要旨を把握することができるかどうかをみる	読むこと

### 【小学校算数】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
3(4)	46.4% (+3.1)	選択式 [-1.2]	66÷3 の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ	(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができる	数と計算
2(1)	58.0% (+1.6)	選択式 [-1.8]	テープを2本の直線で切ってきた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ	台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	図形
3(3)	67.3% (+0.8)	短答式 [-5.1]	(151+49)×3 と 151×3+49×3 を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める	加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる	数と計算
4(1)	37.4% (-3.2)	選択式 [-8.6]	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	変化と関係
1(3)	45.6% (-3.1)	記述式 [-9.9]	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の椅子の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	変化と関係
3(1)	63.9% (-2.9)	選択式 [-6.4]	2種類の辞典を全部並べた長さを求める二つの式について、それぞれどのようなことを表しているのかを選ぶ	( )を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかをみる	数と計算

### 【中学校数学】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
5	53.1% (+8.8)	短答式 [+7.0]	女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	データの活用
7(1)	68.3% (+3.2)	短答式 [+2.6]	1961年～1975年の四分位範囲を求める	四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる	データの活用
6(1)	90.2% (+1.3)	短答式 [+1.3]	はじめの数が11のとき、はじめの数にかける数が2、たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	数と式
8(3)	36.0% (-6.0)	記述式 [-6.8]	グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるか	関数

			6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する	どうかをみる	
6(3)	33.3% (-3.8)	記述式 [-7.6]	はじめの数にかけられる数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	数と式
8(2)	55.0% (-3.7)	選択式 [-6.7]	二人の選手のグラフが直線で表されていることの前提となっている事柄を選ぶ	事象を理想化・単純化することで表された直線のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	関数

### 【中学校英語】

問題番号	正答率	問題形式	問題の概要	出題の趣旨	領域
1(1)	77.9% (+3.7)	選択式 [-1.1]	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	聞くこと
3	36.9% (+1.8)	選択式 [-4.3]	バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	聞くこと
7(1)	53.9% (+1.8)	選択式 [-5.9]	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	読むこと
6	24.0% (-4.4)	選択式 [-11.9]	友達からのメールを読み、相手が示した条件に合うイベントとして最も適切なものを選択する	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる	読むこと
7(2)	27.5% (-3.8)	選択式 [-7.2]	図書館について書かれた英文を読み、その概要として最も適切なものを選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	読むこと
9(1)①	27.8% (-3.6)	短答式 [-12.6]	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる	書くこと

### ② 国語について（成果 ○）と課題（▲）、今後の指導のポイント（★）

#### 小学校国語（6年生）

- 県正答率との差は、-1.0P で昨年度より 3P 縮小している。
- 「書くこと」では県平均正答率を 0.3P 上回り、「情報の活用」では県平均正答率と同率となった。県との差についても「話すこと・聞くこと」R4：-4.8⇒R5：-1.1、「読むこと」R4：-3.8⇒R5：-1.3 と差が縮小している。
- 問題の終盤での無回答率は、県や全国が無回答率より少ない。
- ▲ 領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」に課題がある



- ▲ 出題内容別では、「漢字を書くこと」「敬語の理解」に課題がある。
- ★ 普段の生活の中で漢字や敬語を使うようにするとともに、習得のための手立てを考える。
- ★ 読解力の育成を目指した指定校の取組への支援を充実させ、その取組の成果を各学校へ広げていく。また、学校図書館活用教育、調べる学習等の取組も継続していく。

### 中学校国語（3年生）

- 領域別では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」において、それぞれ2.4P、0.5P 県平均正答率を上回った。
  - 出題内容別では、「漢字を書くこと」「自分の考えをまとめること」「表現の効果について考えること」が県の平均正答率を上回った。
  - ▲ 県平均正答率との差は、-2.0P で昨年度より差が2.0P 広がっている。
  - ▲ 領域別では、「書くこと」「読むこと」に課題がある。
  - ▲ 出題内容別では、古典に課題がある。
  - ★ 学校図書館活用教育、調べる学習等の取組を継続し、古典に親しませる工夫をしていく。
  - ★ 文章を読んで理解したことに知識や経験を結び付けて考えたり、表現の効果を考えたりする場を授業の中に意識的に取り入れて、自己の考えを書く活動を重視する。
- ③ 算数・数学について（成果（○）と課題（▲）、今後の指導のポイント（★））

### 小学校算数（6年生）

- 県平均正答率との差は-1.0Pと、昨年度より3P縮小している。
- 4つの領域とも県平均を下回っている。しかし、「数と計算」「図形」「データの活用」ではその差はいずれも1P未満であり、「変化と関係」領域においても「R4：4.0P⇒R5：2.2P」とその差が縮小している。
- 問題内容別（選択式、短答式、記述式）正答率は、県平均正答率との差が最大（記述式）で-1.3Pであり、差は縮小している。
- 全般的に県平均正答率との差は縮小しており、各校における授業改善が進んでいることが認められる。
- ▲ 記述式の問題の正答率が他の出題内容より低く課題がある。
- ▲ 「図形領域」において、「三角形の面積」では「底辺と高さ」の関係の確かな理解に基づいて、公式を活用することに、また図形の性質の理解に課題がある。

### 中学校数学（3年生）

- 平均正答率の県との差及び全国との差は、それぞれ前回調査から改善している。（県との差 R4：-3.0P⇒R5：-1.0P）
- 対象学年の平均正答率の県との差の経年比較によると、中学校1年時及び中学校2年時の県学力調査から改善している。（中1：-4.5P⇒中2：-2.9P⇒中3：-1.0P）
- 領域別正答率では、「データの活用」について、県平均及び全国平均を上回っている。（県比+2.8P、全国比+2.9P）
- 生徒質問紙調査から、「数学の勉強は好き」について、下記の表のとおり、前回調査との比較でも、対象生徒の経年比較でも、肯定率の改善が認められた。これは、昨年度から「数学的活動の充実」を重点として学校訪問で周知し、授業改善が行われている成果であると考えている。

＜前回調査との比較＞

＜対象生徒の経年比較＞

調査	R4 全国	R5 全国	R3 県(中1)	R4 県(中2)	R5 全国(中3)
浜田市(県比)	53.9(-4.4)	57.4(-0.9)	54.4(-4.4)	54.9(-1.1)	57.4(-0.9)

島根県	58.3	58.3	58.8	56.0	58.3
全国	58.1	56.7			56.7

- ▲ 平均正答率について、改善はみられるものの、全国との差は依然大きい。(全国との差 -4.0P)
- ▲ 領域別正答率では、「関数」について課題がある。(県との差 -3.6P)
- ▲ 問題別正答率では、6(3)や8(3)に課題がある。これらの問題は、問題解決の方法や成り立つ事柄を見いだして、数学的に「説明する」ことについて見る問題であった。
- ▲ 生徒質問紙調査から、「授業の内容はよく分かる」(肯定率71.3%：県との差 -3.1%)及び「授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う」(肯定率74.0%：県との差が -5.0%) について特に課題がある。

#### ★算数・数学についての今後の指導のポイントとして

重点としている「数学的活動の充実」による授業改善の推進

- ・児童生徒の活動場を保障する授業
- ・「具体的な問題場面と数学的な表現」や「数学的な表現間」の関連付けの重視
- ・指定校での実践の成果の普及
- ・学校訪問指導による啓発

#### ④ 英語(中学校のみ)について(成果○)と課題(▲)、今後の指導のポイント(★)

- 平均正答率の県との差は、前回調査から改善している。(R1：-4.0P ⇒ R5：-2.0P)
- 対象学年の平均正答率の県との差の経年比較によると、中学校1年時及び中学校2年時の県学力調査から改善している。(中1：-2.8P ⇒ 中2：-3.8P ⇒ 中3：-2.0P)
- 領域別正答率では、「聞くこと」については県とほぼ同程度(-0.3P)であり、これは前年度の県学力調査と同様の傾向である。
- 生徒質問紙調査から、「英語の勉強は好き」について、肯定率は県を上回っている(+4.3P)。これは、「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていた」への肯定率(79.9%：県比+4.2%、全国比+1.2%)が示すよう、「表現する」活動が充実していることが一つの要因であると考えている。
- ▲ 県平均との差は縮まっているものの、全国平均との差は依然大きい。(R1：-7.0P ⇒ R5：-7.6P)
- ▲ 領域別正答率では、「読むこと」及び「書くこと」に課題がある。(県との差「読むこと」：-2.3P、「書くこと」：-2.7P)
- ▲ 問題別正答率では、6や7(2)に課題がある。これらの問題は、「置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ること」や「文章の概要を捉えること」ができるかどうかを見る問題であった。
- ▲ 生徒質問紙調査から、「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていた」への肯定率に特に課題がある(58.4%：県比-4.1%、全国比-5.4%)。スピーチやプレゼンテーション等の「事前準備をした表現活動(単方向のコミュニケーション)」は充実しているが、「(即興での)伝え合う活動(双方向のコミュニケーション)」の実施状況が不十分であると考えられる。
- ★ 目的、場面、状況を設定し、生徒が英語を使って気持ちや考えを「伝え合う」などの言語活動を充実させていく。
- ★ 教科書等を読む際は、1文ずつ理解するのではなく、初見のまとまった英文から必要な情報を取り出すために、「目的を持って読む」などの活動を繰り返していく。
- ★ 領域統合の活動を充実させていく。(例：聞いたり読んだりした内容について、感想や意見の

やり取りをする。また、その内容についてまとめた英文を書く。)

⑤ 平均正答率の県との差の推移について

小学校では、国語、算数ともに前回調査よりも県との平均正答率の差は縮小し、令和3年度以降は下降傾向にあった状況に若干の改善が認められた。

中学校では、平成30年度以降、県平均正答率との差が全体として縮小し、改善傾向にある。しかし、国語については前回調査を下回った。

⑥ 調査対象学年の県との差の経年比較について

小学校6年生、中学校3年生ともに、小学校5年生段階及び中学校1・2年生段階と比較して県との差は縮小しており、授業改善の成果が認められる。

⑦ 問題形式別の県との差について

小学校については、全ての問題形式において県との差は縮小している。課題であった記述式についても改善傾向が認められる。

中学校については、特に記述式について課題がある。

⑧ 正答率分布について

これまで、小中学校共に高正答率者の割合が少なく、低正答率者の割合が高いことが課題であった。高正答率者が少ないことは依然として課題ではあるが、前年度と比較して小学校では、国語、算数ともに全国や県の正答率分布に近づいている。中学校では、教科によって正答率分布に大きな違い(全国や県も同様)がある。国語は前年度と比較して、全国や県の分布に近づいている。数学は低正答率者を中正答率層へ、中正答率者を高正答率層へ移行させていくことが必要である。英語は、前回調査と比較して低正答率層が増えており、低正答率者を中正答率層へ移行させていく必要がある。

(7) 児童生徒の意識調査及び学校質問紙調査(校長の自己評価)結果及び今後の取組の方向性

ここでは、児童生徒意識調査で注目している質問項目を挙げている。また、学校質問紙においては、児童生徒意識調査で取り上げている項目と関連のある項目を挙げている。したがって、児童生徒意識調査結果について学校質問紙と関連付けながら分析を行っている。

なお、昨年度まで取り上げていた「普段、1日当たり2時間以上テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をする児童生徒の割合」は質問項目から削除されたため、掲載していない。

<児童生徒質問紙結果>

( )内の数値は、県肯定率との差を表している

質問項目	小学校6年生		中学校3年生	
	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
自分には、よいところがあると思いますか	74.6 (-2.7)	73.9 (-7.2)	76.8 (-4.2)	85.2 (+4.1)
将来の夢や目標をもっていますか	74.1 (-3.5)	73.9 (-4.8)	66.6 (-1.1)	66.5 (-0.1)
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか (学校の授業の予習や復習を含む)	60.7 (-11.2)	64.2 (-6.9)	58.6 (-6.1)	52.8 (-8.6)
学校の授業時間以外に、普段1日当たり1時間以上勉強をしていますか	49.6 (-10.6)	50.5 (-3.4)	53.0 (-4.1)	46.7 (-5.5)
学校の授業時間以外に、普段1日当たり30分以上読書を読みますか	28.8 (-2.5)	30.5 (-0.3)	28.0 (+2.0)	28.1 (+1.5)
授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分	65.5	66.6	79.5	77.0

から取り組んでいましたか	(-8.3)	(-7.4)	(-1.8)	(-3.6)
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	71.7 (-6.2)	71.8 (-5.5)	80.3 (-0.1)	80.7 (-1.7)
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	69.3 (-1.0)	67.3 (-5.8)	73.9 (-2.2)	75.9 (-2.3)
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	66.8 (-4.9)	63.8 (-5.2)	72.6 (-1.5)	70.5 (-2.7)
国語の勉強は好きですか	54.4 (-4.6)	61.2 (+1.3)	60.1 (-1.4)	67.6 (+7.1)
算数・数学の勉強は好きですか	52.6 (-5.2)	50.8 (-3.6)	53.9 (-4.4)	57.4 (-0.9)
英語の勉強は好きですか（令和1年度との比較）			55.5 (-1.3)	50.4 (+4.3)

**学校質問紙（校長の自己評価）結果**

（ ）内の数値は、県肯定率との差を表している

質問項目	小学校		中学校	
	R4年度	R5年度	R4年度	R5年度
学校生活の中で、一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行った	93.8 (-5.1)	100 (+1.5)	100 (+1.1)	100 (+3.1)
将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした	81.3 (-2.4)	68.8 (-14.9)	100 (+1.0)	66.6 (-29.3)
児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っている	81.3 (+7.8)	93.8 (+19.8)	88.9 (+30.4)	66.7 (+1.8)
個々の教員が、自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加している	56.3 (-0.8)	68.8 (+2.5)	44.4 (-7.8)	22.2 (-41.7)
児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができている	56.3 (-24.8)	87.6 (+5.5)	88.9 (12.4)	100 (+24.8)
児童生徒は、学級やグループでの話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	56.3 (-13.6)	87.5 (+9.4)	88.9 (+9.6)	77.8 (+1.5)
学級生活をよりよくするために、学級会（学級活動）で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法などを合意形成できるような指導を行っている	81.3 (-9.0)	87.6 (-2.7)	100 (+8.5)	88.9 (+3.4)
学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童生徒が意思決定できるような指導を行っている	81.3 (-2.3)	81.3 (-5.4)	100 (+10.6)	100 (+14.5)

① 児童生徒意識調査の「自分にはよいところがある」、「将来の夢や目標をもっている」について

「自分には良いところがある」について、小学校は肯定率が R4：74.6%⇒R5：73.9%で前回調査を下回り、県との差は R4：-2.7%⇒7.2%と広がった。中学校は肯定率が R4：76.8%⇒R5：85.2%と前回調査を上回り、県との差は R4：-4.2%⇒R5：+4.1%と上回った。特に、小学校においては学校の認識（学校質問紙における「一人一人のよさを評価する取組」R5：100%）と児童の意識に差がある。児童のよさを評価する営みや学級活動の指導の在り方を見直していく必要がある。

「将来の夢や目標をもっている」について、小学校は肯定率が R4 : 74.1%⇒R5 : 73.9%と下回り、県との差は R4 : -3.5%⇒R5 : -4.8%と開いた。中学校は肯定率が R4 : 66.6%⇒66.5%とほぼ同率であるが、県との差は R4 : -1.1%⇒R5 : -0.1%であり、県とほぼ同率となった。学校質問紙の肯定率も小学校は R4 : 81.3%⇒R5 : 68.8%、中学校は R4 : 100%⇒66.6%と前回調査を下回っていることから、学級活動をはじめとした、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導の在り方を見直していく必要がある。

## ② 家庭学習について

児童生徒意識調査の「家で自分で計画を立てて勉強をする」について、小学校の肯定率は R4 : 60.7%⇒R5 : 64.2%で前回調査を上回り、県との差は R4 : -11.2%⇒R5 : -6.9%と縮小した。中学校の肯定率は R4 : 58.6%⇒R5 : 52.8%で前回調査を下回った。県との差は R4 : -6.1%⇒R5 : -8.6%と広がった。

「1時間以上勉強をする」について、小学校の肯定率は R4 : 49.6%⇒R5 : 50.5%で前回調査を上回り、県との差は R4 : -10.6%⇒R5 : -3.4%と縮小した。中学校の肯定率は R4 : 53.0%⇒R5 : 46.7%で前回調査を下回り、県との差も R4 : -4.1%⇒R5 : -5.5%と広がった。

家で自分で計画を立てて勉強する児童生徒の割合を増やしていくための取組を強化していくことで、家庭学習時間の増加も目指していく必要がある。

## ③ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況について

児童生徒意識調査の「授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」について、小学校の肯定率は R4 : 65.5%⇒R5 : 66.6%と前回調査を上回り、県との差は R4 : -8.3%⇒R5 : -7.4%と縮小している。中学校の肯定率は R4 : 79.5%⇒R5 : 77.7%で前回調査を下回り、県との差も R4 : -1.8%⇒R5 : -3.6%と広がった。中学校においては学校の認識（学校質問紙における肯定率 R5 : 100%）と生徒の意識に差がある。また、中学校の学校質問紙における校内研修の実施や研究会等への参加に関する項目の肯定率は R5 : 44.4%⇒R5 : 22.2%と前回調査を大きく下回っている。学校として、積極的な研究会等への参加を促す。そして、その成果を共有していくこと通じて主体的な学習についての捉えを学校全体で再認識し、実践をしていく営みが必要である。

児童生徒意識調査の「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりできている」について、肯定率は小学校 R4 : 71.7%⇒R5 : 71.8%、中学校は R4 : 80.3%⇒R5 : 80.7%で前回調査を上回った。県との差は、小学校 R4 : -6.2%⇒R5 : -5.5%で縮小しているが、中学校は R4 : -0.1%⇒R5 : -1.7%と広がった。小学校においては、前回調査において課題のあった学校質問紙の同様な項目における肯定率 R4 : 56.3%⇒R5 : 87.5%と改善が認められている。対話的な学習指導を継続していく。

## ④ 教科の勉強が好きな児童生徒の割合について

国語についての肯定率は、小学校 R4 : 54.4%⇒R5 : 61.2%、中学校 R4 : 60.1%⇒R5 : 67.6%と前回調査を上回り、県との差も小学校 R4 : -4.6%⇒R5 : +1.3%、中学校 R4 : -1.4%⇒R5 : +7.1%と上回った。

算数についての肯定率は、小学校 R4 : 52.6%⇒R5 : 50.8%と前回調査を下回り、中学校は R4 : 53.9%⇒R5 : 57.4%で前回調査を上回った。県との差については、小学校 R4 : -5.2%⇒R5 : -3.6%、中学校 R4 : -4.4%⇒R5 : -0.9%で縮小している。

英語（中学校のみ）についての肯定率は、R1 : 55.5%⇒R5 : 50.4%で前回調査を下回ったが、県との差は R1 : -1.3%⇒R5 : +4.3%と上回っている。

特に、算数・数学好き、英語好きの児童生徒を育てていく必要がある。

## 4 今後の取組の方向性について

### (1) 「知識・技能」の確かな定着への取組の継続

1 単位時間の授業の中で習得した知識・技能を活用する時間をより多く設定し、知識・技能の定着を図るための授業改善を行う。

また、各学校が、基礎的学力育成のために行っている取組（基礎学力テスト、書き取り会、計算会、家庭学習の工夫、家庭学習の定着、プリント配信システム（タブレットドリル版）の活用、指導・支援が必要な児童生徒への指導の時間確保等）は、今後も継続して、基礎的・基本的な知識・技能の定着を確かなものとしていく。

### (2) 授業改善、「思考力・判断力・表現力」の育成

浜田市の児童生徒の課題として、「限られた時間で、多くの情報の中から課題解決に必要な情報を収集して考え、根拠を明確にして筋道を立てて表現（言葉や文章、式、図、音声言語など）する力」を挙げている。この課題解決に向かい、市教育委員会が授業改善のための方策として示している「子どもの声でつくる授業」を核としながら、各学校で進めている「主体的・対話的で深い学び」を実現していくための取組を継続していくとともに、授業構想段階から指導主事が関わるなどの授業づくりへの支援を充実させていく。

なお、課題であった算数・数学については、重点としてきた数学的活動の充実により改善傾向がみられ始めている。この取組を継続していくことで、算数・数学好きな児童生徒を育てていくとともに、数量や図形概念等の構築や思考力・判断力・表現力等を育成する。さらに、昨年度から取り組んでいる算数・数学アドバイザーによる指定校を中心とした指導を各学校へ広げていく。

協調学習として取り組んでいる知識構成型ジグソー法及び図書館活用教育の取組は思考力・判断力・表現力において浜田市の児童生徒の課題解決へ迫る手法としても適していると考えている。したがって、協調学習や図書館活用教育の研修を充実させるとともに指定校の取組を各小中学校に広げていく。

### (3) 「夢や目標をもって取り組む指導（キャリア教育）」「学級経営」の充実

「子どもの声でつくる授業」を実現していくには、「落ち着いて安心して学習に向かえる環境・学級づくり」や「夢や目標をもって取り組む指導」等の確実な積み重ねが重要となる。安心して学習に向かえる環境・学級づくりについては、「なすことによって学ぶ」を方法原理とする特別活動、なかでも学級活動の取組が大切となる。生徒指導担当指導主事も連携を図り、各学校の取組を支援していく。また、県教育委員会の指定で実践を積み重ねてきたキャリア・パスポートの研究実践を基盤としながら、キャリア教育が組織的に展開されるように小中連携教育とも関連させながら取り組んでいく。

この小中連携教育では、家庭学習に対する課題を解決していくために、自分で計画を立てて実践し振り返る営みを重点として取り組んでいる。この取組を更に充実させていく。